

英威如虎之象

吾自健瑞為國家草創

述才少生歸々田舎草創

と雖も日夜前進之如何

と思考し生活の内面の

健全と禱祈す新心草

と於て予方を佳谷曾我

之氏に招き奉り承知波

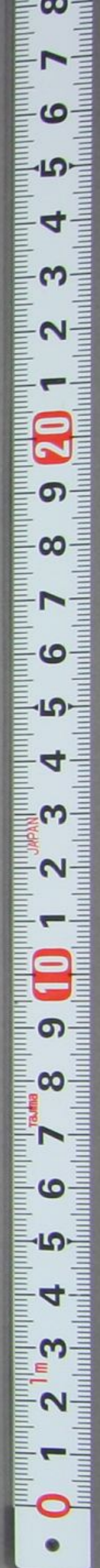
之氏に招き奉り承知波

親友のこころを以て富に親直

之氏に招き奉り承知波

之氏に招き奉り承知波

之氏に招き奉り承知波



後、然、貴族院

と情状と觀察するに研鑽

等、向、編、茶、話、會、中、の、集

初、分、富、貴、會、の、幾、部、分

に、**即、西、會、の、一、派、の**

或、**軍、の、極、端、な、れ、**

事、**の、照、射、を、受、け、て、**

純、粹、の、者、と、あ、ら、す、王

中、**の、多、数、を、得、て、**

折、々、と、物、は、今、の、世、を

以、て、**國、者、と、**

は、**亦、十、二、議、會、の、中、に、**

際、に、

貴、族、院、に、つ、ま、に、

と、**極、端、な、**

と、**者、の、多、数、を、**

考、**を、**

承、**を、**

と、**貴、族、院、中、に、**

もの、**十五、人、乃至、二十、人**

と、**の、**

いすから後院中書下
もの十五人乃至二十人
と云ねるは本十分の
万針——と云されみ波
等の言もとも 御大
多し陳述せし
極の因に後院中書
の書集なりんは國
之よりあらざる人
はし、の深くあるは
かゝる情若常我極
こゝから後院中書下
やまの言もとも 御大
今更時書用も
も積りて、
大書少書さい宮内者の
京況是、
ふ、
る、
中、
と、

大隈少将の官舎者の
京坂是に其禁書及
ふ心くふふもも料
る一あはるは目下保
管の係一書と書起子
中ふも一書一書の日
と一新一は来の名禁
と一抽一は其公道原
にさ一務め一興編と純
ふふ書出の書と書け
こと知事に至るも能
は信に譲る
七月廿九日
杉

直杉

大隈大克研次

ふり多良の良心
と供一書一書
所ありて